京都市総合教育センター研究課 NEWSLETTER

No.232　令和３年９月27日

京都市下京区河原町仏光寺西入ル
TEL　075（371）2705
FAX　075（353）4851

第23回 教育研究発表会
令和４年２月18日（金）

この「NEWSLETTER」は，研究の進捗状況，「フレッシュせんせい教師力アップ教室」の案内や報告，各研究所との共同研究など，研究課の諸活動について紹介します。

回覧 掲示
よろしくお願いします

『GIGA端末』こんな活用しました！

小学校６年　社会科　貴族のくらし

複数の異なる資料から，関連性や共通性があると考えた資料を選んで，貴族の文化の特徴をとらえました。

単元冒頭の様子です。児童はロイロノートで配信された８つの資料を比較し，その中からいくつかを選択して，クラゲチャートを用いて，見いだした関連性や共通性から貴族の文化を自分の言葉で表現しました。この活動をもとに追究する問いをつくり，次の「調べる」段階に向かいました。

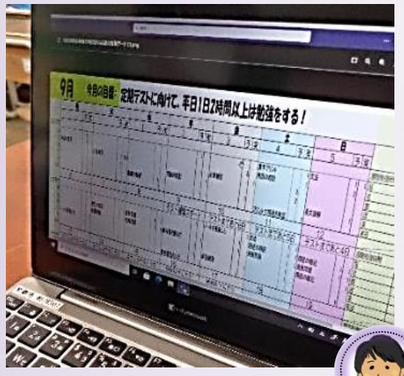
平安時代の貴族のくらしを学習しながら「文化って，その時代の出来事とかと関係することがあるんだ…」「文化に着目すると，当時の出来事や様子を予想できそう…」などという気づきを促すことを目指しています。

中学校　学びを自己調整する力の育成

生徒が自分の学習を正しく調整するために必要な“学びを自己調整する力”の育成を目指しています。

今回は，架空の人物のテスト２週間前からの学習計画と学習の記録（教科毎の学習時間や学習内容），観点ごとにグラフ化した過去の定期テストデータなどの情報を基に，学習の進め方の傾向や改善点を洗い出すといった分析の練習を行い，クラス全体で共有（ロイロノート）しました。

この後，生徒はセルフマネージメントシートという Excel で作成したシートに学習計画や記録といった自身の学習履歴を GIGA 端末上で個々に入力し，クラウドに蓄積していきます。蓄積した学習履歴を生徒が自身の学習状況を分析し，把握していくための情報として活用していくことで，学習改善を進めていきます。

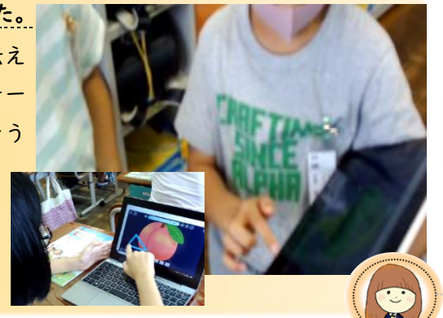


小学校３年　外国語活動　すきなものをつたえよう

自分の伝えたい内容を考えて整理し，お互いの好みを伝え合う活動に取り組みました。

単元終末のコミュニケーション活動において，互いに自分の好きなものについて伝え合う場面です。ロイロノートを活用して，自分の伝えたい内容に合ったプレゼンテーションを作成しました。伝える順番をカテゴリーごとにまとめたり，好きなものとそうでないものの提示の仕方を工夫したりするなど，相手意識をもってそれぞれ自分の思いを表現し，活動している姿が見られました。

このように，児童が相手意識や目的意識をもって,自分の考えや気もちをよりよく表現しようとする姿を目指していきます。



その他にも，様々な活用実践に取り組んでいます。ここで紹介できなかったものについては，京都市総合教育センターの研究課「GIGA 端末活用のヒント」に掲載していますので，ぜひご覧下さい。
※ログインには ID，パスワードが必要です

こちらからもアクセスできます。

研究協力校・研究協力員のご紹介

研究課では，京都市教育の喫緊の課題解決に向け，各研究員がそれぞれのテーマで研究に取り組んでいます。今年度も研究協力校・研究協力員の先生方のご協力のもと，研究実践を進めています。

今年度の研究協力校・研究協力員は下記のとおりです。

小学校　情報教育
木村　祐太　研究員

伏見板橋小学校	徳留　典子　先生
	青木　奨太　先生
明親小学校	前橋　　壮　先生
	坂山　永祐　先生

中学校　情報教育
久保田　守　研究員

八条中学校	緒方　秀俊　先生
安祥寺中学校	八藤　由之　先生

小学校　外国語教育
丹後　由香　研究員

洛央小学校	山崎　典子　先生
	山口　鈴夏　先生
南太秦小学校	藤本　　侑　先生
	今北　瑞希　先生

中学校　教科指導（社会科）
藤本　裕之　研究員

下京中学校	松葉　耀介　先生
下京雅小学校	上田　亮介　先生
	中川　阿星　先生

小学校　教科指導（算数科）
椙村　　契　研究員

御所東小学校	重松　賢太　先生
	川井　柚香　先生
嵯峨野小学校	香月　広大　先生
	松本ちなみ　先生

中学校　教科指導（数学科）
寺井　　淳　研究員

中京中学校	華井　崇博　先生
近衛中学校	小林　翔太　先生

次号（233号）の NEWSLETTER について

今後も NEWSLETTER に関しては，こちらの行政情報ネットワークの「新着掲示 BOX」に投稿します。次回の発行は **11月初旬**を予定しています。ぜひご覧ください。

次号（233号）の内容
- GIGA 端末活用実践の紹介
- 第２回フレッシュせんせい教師力アップ教室の報告
- 第３回フレッシュせんせい教師力アップ教室の案内
- 研究実践の様子（研究員３名より）

過去の『NEWSLETTER』はこちらからアクセスできます。

研究の進捗状況　part 1

多面的・多角的に事象を捉え結論付ける力の育成を目指して

～小中の学びをつなぐ～

研究員：藤本　裕之

小中の校種を問わず，社会科では多面的・多角的に考察して選択・判断（構想）する力を育むことが求められています。多様な**視点を自在に駆使して事象を捉える**ことができるようになれば，例えば問題解決への新たな選択肢や別の可能性を見いだすことにつながります。この点だけをとっても，未知の状況に対応していくために，将来にわたって必要な資質・能力の一つといえます。

とはいっても，「いろいろな視点からよく考えてみて」と子どもたちに促しても，なかなか上手くいきません。

本研究では，多様な**視点を習得し発揮する**4つの学習活動と，児童生徒が思考過程で無意識のうちに働かせている**視点を可視化**するという指導者の働きかけを小中の指導者間で共通理解して実践を進めています。

【視点の習得・発揮のための学習活動と指導者の働きかけ】

習得 ①明示された視点に沿って分類する
②事象同士を比べて共通性を見いだす

発揮 ③未知の事象について予想する
④価値判断・意思決定する

“見えるーペ”という教具を用いて視点を可視化する

④の学習活動を例に説明します。例えば「飛鳥時代から奈良時代にかけて天皇中心の国づくりは進んだのだろうか」という学習問題を設定したとします。価値判断や意思決定を行う際，多くの場合，思考過程において自分なりに重視する視点が存在します。子どもたちはどのような視点を働かせて結論付けているのでしょうか。

> 私は進んでいないと思う。なぜなら資料を見ると，都で暮らす人たちの生活はよくなってきているように感じているけれど，万葉集の防人の歌を読むと，地方で暮らすしょ民の生活は税に苦しんでいて，国としてはまだまだだと思うから　A

> ぼくは天皇中心の国づくりが進んできたと思う。憲法や法律，税のしくみなどもできてきている。それに，あんなに大きな大仏や国ごとに国分寺などを建設できるのは，国をまとめる力がなかったらできないと思ったから　B

Ａの意見は，立場や格差という視点，Ｂの意見は権力や支配という視点から事実を捉え結論付けています。ただ，これを書いた子どもたちが，意識的にそれらの視点を働かせて結論付けているのか，無意識なのかはわかりません。

そこで指導者の働きかけとして「Ａさんは立場や格差に着目して考えたのですね」というように，見えるーペで視点を可視化しながら価値付けます。

見えるーペ

小中を通じてこうした学習を繰り返すことで「別の視点から考える必要はないかな…」「この視点から考えると…」いうように，**多様な視点を意識的に働かせて**，多面的・多角的な考察に基づく問題解決ができる子どもを育てようと，実践中です！

ICT を文房具にする取組

～日常的な活用と授業設計に関わる視点に注目して～

研究員：木村　祐太

GIGA 端末を授業で使ってみると，児童・指導者の ICT 操作スキルが課題になります。慣れてくれば，アナログな方法よりも圧倒的に速い速度で膨大な情報を処理することができる ICT ですが，慣れるまでのハードルをどう乗り越えるかが課題です。そのためのステップを４段階に整理しました。今回は，小学校で到達できるであろうステップ３までを紹介します。

まずはステップ１，**教師によるピンポイント活用**です。既に多くの先生方がされていると思いますが，児童生徒のノートを写真で撮ってロイロノートで共有→比較する，資料を紙ではなくデータで配布する等の活用です。従来の授業と比べて格段に効果があるとは言いにくいのですが，特定の活動を**効率化**することができます。それでも授業ではちょっと…という場合は，帯時間にもできます。お題に当てはまる言葉をカードに書いて提出→共有→みんなと被っていたら得点（被っていなければ得点），のようにゲームをしながら操作練習をすることもできます。

次はステップ２，**児童によるピンポイント活用**です。自分のスピーチ，プレゼン，体育の実技などを動画で撮影し，その情報をもとに課題を分析する活動や，書写等のお手本動画を配布しておき，児童が好きなタイミングで好きな部分を繰り返し見ることができるようにしておくこと，授業中わからない言葉をいつでも調べられるようにしておくこと等が考えられます。高度な活用，長時間連続した活用は必要ありません。例に挙げたような**簡単で汎用的な活用方法で ICT を日常的に取り入れる**ことで児童が ICT を使う機会を急激に増やし，使いこなせるようになることを目指します。帯時間にタイピングソフトを使って練習したり，検索ゲーム（指導者から送られてきた写真・イラストが何かを検索する，指導者からのお題について答えを探す）をしたりして，タイピングスキルや検索スキルの向上も図ります。

次はステップ３，**膨大な情報を生かす，単元を通した活用**です。ICT のよさは，膨大な情報を効率的に扱うことができる点にあります。このよさを生かすことで，GIGA 端末を授業に生かすよさが実感できると言われています。例えば，社会科において①児童個々の問いを設定，②問いに応じて情報を収集・蓄積，③集めた情報をもとに話し合う，④話し合ったことをもとに②で集めた情報を使いながら考えを発表，のような活用です。このような課題の設定，情報の収集・蓄積，情報の整理・分析，情報のまとめ・表現という過程は，様々な学習に含まれています。この**学習過程に ICT を当てはめた単元を構想**することで，ICT のよさが生きる学習になりそうです。

学びに向かう姿勢を育む外国語教育の一方策

～外国語を用いて伝え合う楽しさを実感させながら～

研究員：丹後　由香

外国語教育を通して育成を目指す『主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度』とは，授業の中で積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度に限らず，社会に出てからも継続して自ら外国語習得に取り組もうとする態度の育成をも目指しているのです。そこで本研究では，英語活動・外国語活動を通して，児童自ら学びに向き合い取り組もうとする**『学びに向かう姿勢』**を育むことを目指していきます。この姿勢は，大きく次の３つの力に分けて考えることができます。

自分と向き合う力	難しい英語表現に出会ったとき，すぐに「わからない」とあきらめるのではなく，最後まで粘り強く理解しようとする力
自分を高める力	「自分ならできる」と自信をもって新しいことにも挑戦しようとする力
他者とつながる力	相手意識を大切にしながら人とつながろうとする力

まず，児童の実態を踏まえつつ育みたい力を行動指標まで具体化し，可視化するために，右下の図のようなアセスメント表を作成していきます。そして，どのような活動場面でその姿を**見取り価値付け**ていくのかといった指導者自身の意識化を図っていきます。

	自分と向き合う力	自分を高める力	他者とつながる力
育みたい力や姿勢	**粘り強さ**	**挑戦する力**	**コミュニケーション力**
	最後まであきらめず試行錯誤しながら取り組める力	新しいことや少し難しいことにも臆することなく挑戦していける力	周囲の人たちとよりよい関係を築ける力
具体的な姿	・難しい表現に出会ったときにわからないとあきらめるのではなく，何度も繰り返し聞いたり質問したりしながら理解しようとすることができる ・相手にわかりやすく伝えるために様々な工夫を凝らしながらなんとか伝えようとすることができる。	・新しい言語表現に出会ったときに進んで声に出して表現することができる ・ALTなどの英語話者に対して自分から積極的に英語でやり取りを始めることができる	・自分の思いや考えを言葉で表すことができる ・自分の思いや考えを伝えるときに非言語的要素を使ってわかりやすく伝えることができる ・相手が伝えようとしていることを考えながら聞くことができる

“活動”とは，必ずしも新たに設定しなければいけないというものではなく，今ある活動を「学びに向かう姿勢を育むきっかけにならないか」という視点で考え，価値付けるチャンスと捉えて意図的に仕掛けていくことなのです。

もちろん，こういった力は周りから強いられて育まれるのではなく，児童が**楽しさを実感**する中で，自然と発揮され，更には他者からの価値付けによって育まれていくものであると考えます。つまり，学びに向かう姿勢を育むためには，**楽しさの実感**がカギとなってくるのです。

そこでまず，「子どもたちは今，どんなことに興味・関心を抱いているだろうか」「子どもたちに今，どんな力が必要なのだろうか」「他の教科で学んだことは生かせないだろうか」といった**児童理解**に基づいて**課題設定を工夫**していくことによって，児童の**知的好奇心を高めて**いきたいと考えます。

また，外国語での表現内容や表現方法，あるいは学び方などを**自己選択・自己決定**できる場面を積極的に取り入れることで，児童が思いをもって主体的に活動できるようにします。そうすることで，児童は更に楽しさを見いだしていくのではないかと考えます。

このように，**楽しさの実感**を通して児童の**学びに向かう姿勢**を高めていくことで，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指し，実践を進めていきます。